

## 校長式辞

鳥羽商船高等専門学校本科ならびに専攻科の新生の皆さん、

ご入学おめでとうございます。

また、今日まで入学生の皆さんの成長を温かく見守り、励ましてこられた保護者の皆様にも、本校教職員を代表して、心よりお祝い申し上げます。

本日、ここ本科には商船学科四十二名、情報機械システム工学科八十名、情報機械システム工学科三年次編入生の留学生三名の合計百二十五名の新生を迎え、さらに専攻科生産システム工学専攻に八名の進学者を迎え、令和六年度の入学式を挙行できますことは、私ども鳥羽商船高等専門学校教職員ならびに在校生一同にとりまして、大きな喜びです。

さて、皆さんが入学された鳥羽商船高等専門学校は、長い歴史のある学校で、明治時代の六大教育家のひとりである校祖近藤真琴翁が明治八年（一八七五年）九月に芝新銭座（しんせんざ）二番地（現、東京都港区浜松町）に航海測量習練所（後の商船黌）として創基し、その分校として明治十四年（一八八一年）八月二十日に鳥羽商船黌として創立されました。その後、変遷を経て昭和四十二年（一九六七年）六月に現在の国立鳥羽商船高等専門学校となりました。来年度令和七年（二〇二五年）九月に、創基百五十周年・高専創立六十周年を迎えます。

これからも教育・研究に関して、さらに一層の充実と発展を目指していきます。

入学された皆さんには、我が国の将来を担う人材として、日本の社会と産業界から、皆さんが想像する以上の大きな期待がかけられています。本科で五年、あるいは五年半、専攻科に進む人はさらに二年間学問等を磨き、実践的な工学の知識と技術を身につけて、創造力と協調性、およびリーダーシップを備えた逞しい人間に育ってほしいと願っています。本校では全ての学生が心すべき三つの教育目標を掲げ、人間力にあふれた、創造性豊かで国際的に通用する、高度な実践的技術者の育成を行っています。

この場には、礼儀をわきまえ、他人を思いやる心を持った人、海や船に興味がある人、ものづくりに興味がある人、エンジニアや科学者を目指す人、自らの夢に向かって進もうとする人、積極的にコミュニケーションすることで、国際社会で活躍したい人等が集まっていることと思います。

さて、私はこの場で新生の皆さんに二つのお願いをしたいと思います。

○ 一番目は、「他人の個性を認め、尊重すること。」

私たち人間は、同じ作業でもさっさと素早くやるひと、時間のかかるひとがあります。また、相性というものもあります。時には素早くやっつけることが大事なときもあり、また、時間をかけて丁寧な作業が必要なときもあるのです。それぞれの得手不得手をお互いに認め、尊重し互いに得手不得手を理解し助け合うように努力してください。楽しい気持ち、良いクラスを作ること、世界平和を構築することも、この「他人の個性を認め、尊重する。」という同じ考え方が基本です。

そして、「他人を思いやり、優しい人になってください。」

○ 二番目は、「志を立てて進むこと。」

「志を立てる」ということは、目標を設定して、在学期間中、おそらくいろいろなことが起こるでしょうが、諦めないでその「志」に向かって進んで行ってください。ここでの「志」とは、皆さんが人生で迷った時、進むべき道を照らす松明（たいまつ）の役目を果たします。学年が進むとともに「志」に一步でも近づいていることを望んでいます。

次に学生寮に入る皆さんにお願いをします。

皆さんにとって寮生活はおそらく初めての人がほとんどだと思います。寮はクラスやクラブ活動とは異なった共同生活の場です。皆さんが楽しくかつ実りある寮生活を送るために一番大切なことは、一番目で御願いをした「他人の個性を認め、尊重する。」ということです。寮生活の経験が、一生の宝物になるか否かは「他人の個性を認め、尊重する。」の一点にかかっています。ここでの経験をを通して終生の友人を見つけることができましたら、私たちにとっては望外の喜びです。

最後になりましたが、本校では、学則に則り、用意した教育カリキュラムに従って学生の皆さんの教育に当たってまいります。保護者の皆様におかれましては、本校の教育にご理解をいただき、お力添え、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。式辞といたします。

令和六年四月五日

鳥羽商船高等専門学校長

古山 雄一